

僕の住んでいた町が魔族の侵略に抗えず、僕は魔族に捕らえられました…

これから僕らをどうするつもりなのか、聞いても何も教えてもらえず、僕はズボンを脱いでチンチンを謎の穴から出すように言われました…

そうしてから少し経った後、僕の頭が不安で一杯になっていると、何人もの悪魔が部屋の中に入ってきました…

いやー疲れた疲れた

ようやく飯の時間だぁ♥♥

早くご飯食べたーい♥♥



お！もしかしてこないだ侵略した村から拐ってきたちんぽ！？
ラッキー♡♡♡一番乗り♡♡♡

悪魔は壁から出された僕のチンチンを見て喜ぶと、僕のチンチンをおもむろに口に含みました

た、食べられる！そう思ってた、恐怖で思わず目を瞑りました

しかし、痛みが来る事はなく、温かい口の中でぐちゅぐちゅと唾液まみれにされた後、皮の中に舌を入れられ、しつこく舌で亀頭をねぶられました…

(初モノシヨタ
チンポうまあ…♡)

その後悪魔は口の中で僕のチンチンの皮を剥くと、敏感な僕の亀頭をねっとり舌で舐め回してきました…

最初に感じた恐怖はあっという間に吹き飛び、僕はチンチンから感じる気持ちよさに夢中になりました…

僕はあつという間に射精してしまいました。
悪魔は僕の精子をもっと飲みたいらしく、僕が
射精している間もしつこくしゃぶっては吸い付き、
僕は精液を大量に吸い取られてしまいました

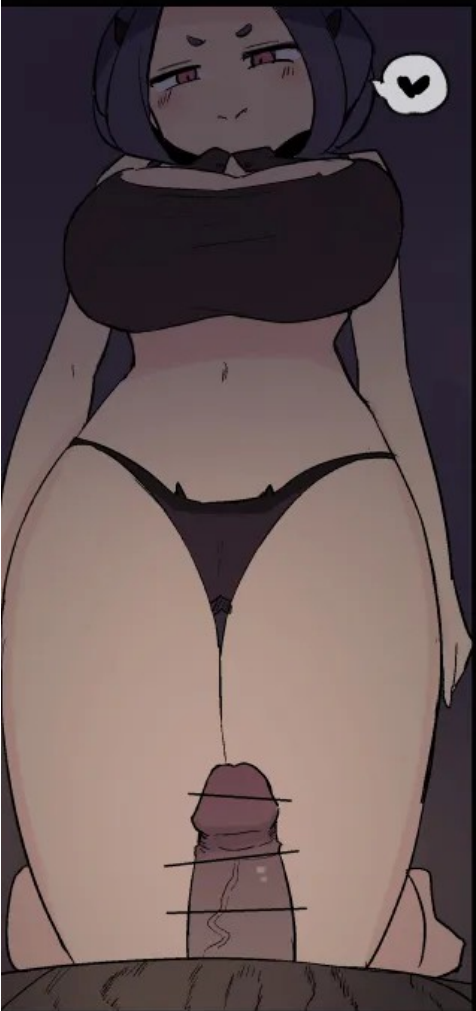
びゅるるっ

ふと横を見ると同じく連れて
こられた奴隷が息を荒くし、
「イ、イク!」と
小さく叫んでいます

そこで僕は気づきました…僕たちは悪魔の餌として
連れてこられたのだと。これからずっと僕たちは
悪魔に精液を死ぬまで搾り取られ続けるのだと…

びゅるるっ

それを知った僕は……
嬉しくて気絶しそうに
なりました……



というのも、僕は…その…Mっぽい性分で、昔から美人のお姉さんに無理やり何度もチンチンをイジメられてイカされるといいうシチュが大好きで、何度もそういった妄想でオナニーしていたからです。



びゅるっ



壁ではなく床の日もあり、そういう時はパイズリやセックスでチンチンを沢山イジメて貰えました…

僕の子想通り、僕たちは食事用の精液用奴隷として扱われました。

びゅるっ

はるんっ

その後一週間ほど経過し、僕は絶好調でした。良質な精液を出すために、良い食事と適度な運動に十分な睡眠。そして毎日のお楽しみとしてお姉さん達にいっぱいチンチンをイジメてもらえる天国の様な環境だったからです。



ですが、一緒に連れてこられた他の奴隷達にとっては大変苦痛だったらしく、歯向かって殺されるもの、自ら命を断つもの、精神が崩壊してしまうものもいて、結局連れてこられた奴隷のうち、残ったのは僕一人だけでした

その後、とても協力的で友好的な奴隷として、新しい仕事を任せてもらえるようになりました。それは悪魔のお姉さん達の部屋に行って「お人形」として扱われる仕事です

わー♥お人形さんきたあ♥♥♥
可愛いー♥♥♥♥♥

くはっ♥

あ、あの…ボクは何をすれば…

あー、大丈夫♥別に難しくないよ♥♥

おチンチン硬くして私に
ひたすらぴゅっぴゅするだけだよ♥

お人形の仕事は要するに悪魔のお姉さん達の
セックスのお供をせよ、という事のようにした

あ、あのでも…
ボク自分で動くのは
初めてで…その…

大丈夫♥キミは「お人形」
なんだからおねーさんが
全部指示してあげる♥♥

キミはおチンチン硬くして
お姉さんに従ってればいいの♥♥

出来るよね?♥♥

は、はい…

じゃあ早速お姉さんの中に
おチンチン
挿れてみようか?♥♥
挿れる所わかる?♥♥

あっ、コ、ココですか…?

もうちよっと下だね♥♥

あっ♥♥そう♥♥ソコソコ…♥♥
そのまま体重かけて…♥♥

ああっ♥♥入ってきたあ♥♥♥♥
そのままズプズプしてえ♥♥

悪魔のお姉さんに
言われるまま、僕は必死に
腰を動かしました…

お姉さんの中は、たまに食堂で床係になった時して貰えるセックスで味わう快感とは比べ物にならないほど気持ちよく、僕はほんの一分もしないうちにイキそうになりました…

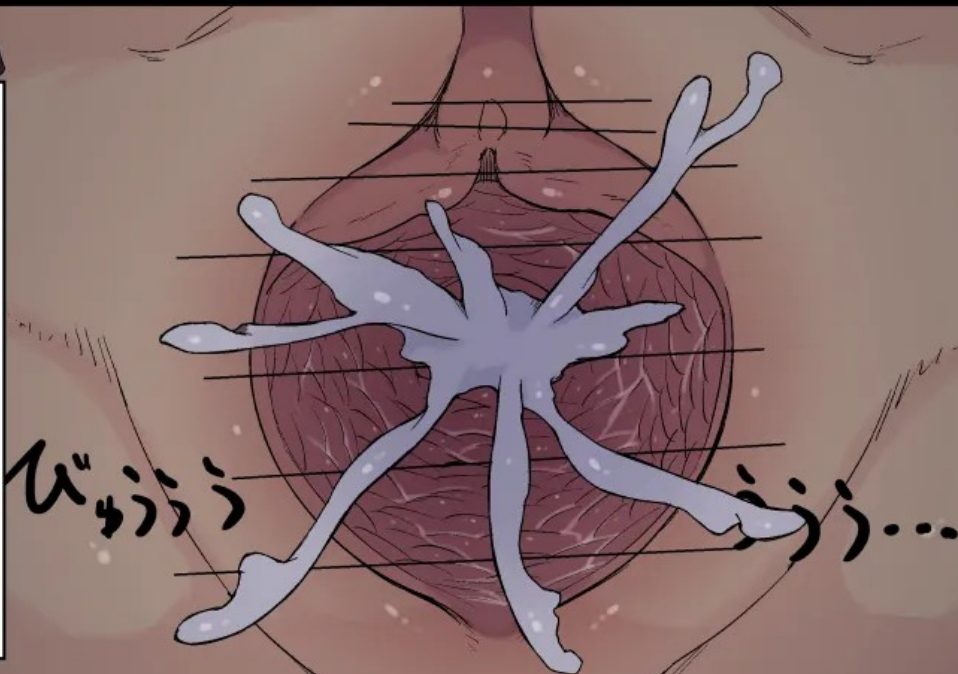
す、すいません！
挿れたばかりなのに
も、もう出そそうです！

あは♥♥
サキュバスの本気おまんこ
凄いでしょ？♥♥

いいよ♥♥お姉さんの膣に
いっぱい出して♥♥

お姉さんに抱きしめられながら、僕はお姉さんの膣内に大量に精液をお漏らししました…

悪魔の魔法なのか、射精中の快感がずっと終わらず、僕はお姉さんの中で強い快感を感じながら一分以上射精し続けました…



ふふ♥美味しい精子ご馳走様♥
お姉さんももっと
本気出しちゃおうかな♥♥

悪魔のお姉さんはそう言うって
今度は僕に覆いかぶさりました…

お人形さんの
おチニチニ頂きませす♥♥

あ、あああ…っ

その後、僕はお姉さんに本気で
イジメてもらいました…

キミってしつこくおチニチニ
イジメられるのが
大好きなんでしょ？♥♥

は、はヒィ!

お姉さんは一回もオマンコから
チンチンを抜かずに宣言通り、
何度も何度も僕を射精させました…
射精だけでなく、何度もチンチン
から潮を噴いて、僕は気絶して
しまいました…

じゃあ今日はキミが
失神するまでお姉さんが

オマンコでおチニチニ
イジメてあげるね♥♥♥

その後、精液奴隷でとても優秀なヤツがいる
という噂は更に広まり、ついに魔族のお姫様が
僕を味見に来るまでになりました

あらあら…♡

こんな小さい子供の癖に…

キミはこわあい魔族におチンチン
イジメられて大喜びする変態君なの？♡♡

は、はい…

お姫様はとても意地悪で
最高な方でした…

お姫様は僕におマンコを
舐めさせながら自分のメイドに
僕のチンチンを舐めさせました…

も、もう無理！もうむりでしゅ！
しや、射精させてくだしやい！！

3回お姫様をイカせるまで
絶対に射精させてあげないと
射精寸前のところで寸止め
フェラを何時間も続けられ、
僕は頭がおかしくなりそう
でした…

ダメです♡♡
ほら♡もっとワタクシの愛液を
舐めとりなさい♡♡



お、お願いしましゅ！
射精させてください！
あ、頭がおかしく
なりそうなんでしゅ！

あらあ…♡
どうしようかしら？♡♡♡
そうねえ…♡♡♡
可愛い可愛い奴隷君が
ワタクシ専用の奴隷君に
なると誓うなら…
射精も許してあげますし
これからずうと…
奴隷君が寿命で死ぬまで
ワタクシが毎日おチンチンを
可愛がって差し上げますわ♡♡

どうする？♡♡♡
なっなりましゅ！
なりましゅからあ！

まあっ♡♡♡
なんて可愛い奴隷君
なのかしら♡♡♡
それではご褒美を
差し上げますわ♡♡

その後、僕はすぐにメイドさんの
口の中に信じられない量の精液を
射精しました…

お姫様はご褒美と言って、それから
ずっと僕の頭を撫でたり抱きしめたり
しながら、おマンコと口で何度も何度も
僕のチンチンをイジメてくれました…

びゅるるる…♡

♡♡

お姫様はすっかり僕が気に入ったらしく、本当に僕を自分専用の精液奴隷にしてくれるようでした

この子はワタクシ専用のお人形さんにします♥♥

連れ帰りますのでその手続をして参りますわ♥♥

いつも僕を可愛がってくれた悪魔のお姉さん達が、それを聞いて僕をお祝いしてくれました

奴隷君おめでとう！

お姫様専用の奴隷なんて下手な貴族よりいい生活出来るよ！

あ、有難うございます！

そうやって僕がお姉さん達に抱きしめられたりしていると、食堂の入口から何やら高貴そうな女性が入ってきました…

御免遊ばせ♥

とっても優秀な精液奴隷がいると聞いて来たのですけれど…

あら、もしかして貴方？可愛いわね♥♥

お、王女殿下…

ま、まやか殿下がこんな食堂に…？

どうやら何か一波乱ありそうな感じが…